

R8 浜之郷小学校グランドデザイン

2026/04/01
校長 安倍 武雄

浜之郷小学校は、今ここにいる子どもと教職員、保護者・地域が共同してつくる学校です。ましてや管理職がつくる学校ではありません。私たち一人一人が学校づくり、教育課程づくりの主体者であると自覚しなければなりません。

私たちが、大切にしていることをもう一度思い出しましょう。それは、大人も子どももここにいて全てのものが、互いにリスペクトしあい、「よりよい学び」を創り上げていくことでした。そのための前提として、相手への思いやり、優しさ、気遣い、承認・・・つまり「聴きあう関係」が全ての関係(子⇄子、子⇄教師、教師⇄教師、...)において実現する必要があります。

私たちが、私たちの学校をつくりましょう。それを多くの方々に評価していただきましょう。

それが、本来の浜之郷小学校の在り方だと思っています。

課題解決・探究的協同的学び

教科の本質(真正)
(教科における「見方・考え方」)
学習参加

聴きあう

学びあう

子どもの育ち

世に発信!!

支えあう

研修

教務・情報

認めあう

互いの学びを保障するための「学びの作法」

人を大切にしない行動・言動に対しては厳しくも温かい指導

なかまへのリスペクト
「なかよし」(低)
→「共同・協力」(中)
→「信頼の上の・・・+α」(高)

インクルーシブ
ダイバーシティ
信頼・安心

大前提

安全・命

教科の本質にせまる学び
学びあう学び(主体的対話的で深い学び)にせまる授業研究の機会の提供
気軽に研究を語る場の設定(お話し)

全ての教育活動が整然と、漏れや重なりがないよう、確実に実施される教育課程づくり
その評価を経ての次年度計画
新たな学習評価(あゆみ)の研究
「声」を生かした教育課程の編成
ネットリテラシーのカリキュラム化

児童支援

だれひとり学びから取り残されない支援・指導体制づくりと素早い対応(アセス活用)
よりよい学校風土の醸成と実態把握
インクルーシブ教育のさらなる深化
生命(いのち)の教育を実施

安全・地域
児童活動

子どもたちが安心して通える安全な学校づくり
ルーティーンとオプションを意識した訓練
保護者・地域や子どもたち同士が豊かに関わる学校づくり(コミスク・サポーター制度)
児童が主体的に学校運営にかかわる児童活動
やりがいのある学校行事

それでも問題は起こる。

問題がおきた際はすべてチーム対応。危機管理のさ(最悪を想定して)し(慎重に)す(素早く)せ(誠意をもって)そ(組織で対応)

稟議システム

担当者

グループ等
(総括・主任)

企画会

職員会議

管理職

決済

前年度反省、自分の意図、管理職の意向などから

(督促)

相談

審議

決済

周知

調査
企画
起案

差し戻し

差し戻し
(再調査)

確認

〇目的をはっきりさせる

→「やること」が大事なのではなく、「何のためにやる」かが大事

＝子どもの育ちのため!!

「それは、子どもの何を育てますか?」
と問う私たちでありたい

〇私たちの浜之郷

→「学びの共同体」ではなく「浜之郷は」が主語でありたい

〇弱さを認め合う

→大人も「ねえ、ここどうするの?」を合言葉に学年会・グループ相談で実現

〇協同的探究的・ジャンプ

→大人も「頭を寄せ集めて」届きそうで届かない課題にチャレンジ!学年会・グループ相談を大切に

ORPDCAサイクル

→ResearchからPDCAへ
子どもの実態から□□しよう
...そして評価・計画へ